

試合実施要領

1 木刀による剣道基本技稽古法による判定試合

(1) 先鋒・次鋒

基本1 一本打ちの技「正面」「小手」「胴（右胴）」「突き」

基本2 連続技「小手→面」

基本3 払い技「払い面」

連続技 「連続左右面」（前進3本、後退3本）

双方右足から「歩み足」にて三步前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

①「掛手」は右足を一步踏み出しながら振りかぶって「元立ち」の左面を打ち、構えに復することなく「元立ち」の引くところを更に右面、左面（都合3回）連続して打ち、更に「元立ち」の前進に対し、後退しながら右面、左面、右面と交互に打つ。

②「元立ち」の受け方は、最初その場で剣先をやや右に開き左面を打たせ、続いて送り足で二歩後退しながら右面、左面を打たせる。更に三步送り足で前進し、右面、左面、右面を打たせる。

③連続左右面の打ち方は次による。

- ・最初の振りかぶりは、正面打ちの要領とする。
- ・頭上で手を返し、刃筋正しく打つ。
- ・左手は正中線をはずさない。
- ・打つ角度は約45度とし、打突部位は左右のこめかみ部とする。

④「掛手」は一步後退して残心を示し、その後双方一步後退して元に復する。

(2) 五将・中堅・三将

基本4 引き技「引き胴」

基本5 抜き技「面抜き胴」

基本6 すり上げ技「小手すり上げ面」

連続技 「連続左右面」（前進3本、後退3本）

※上記に同じ

(3) 副将・大将

基本7 出ばな技「出ばな小手」

基本8 返し技「面返し胴」

基本9 打ち落とし技「胴打ち落とし面」

連続技 「連続左右面」（前進3本、後退3本）

※上記に同じ

(4) 監督が元立ちを務める。ただし、監督がいないチームは選手が元立ちを務めてもよい。その場合、選手の中で一番後ろの者が元立ちを行う（基本は大将となり、大将が掛手の場合には副将が務める）

(5) 選手は胴・垂れをつける。監督は胴、垂れはつけない。

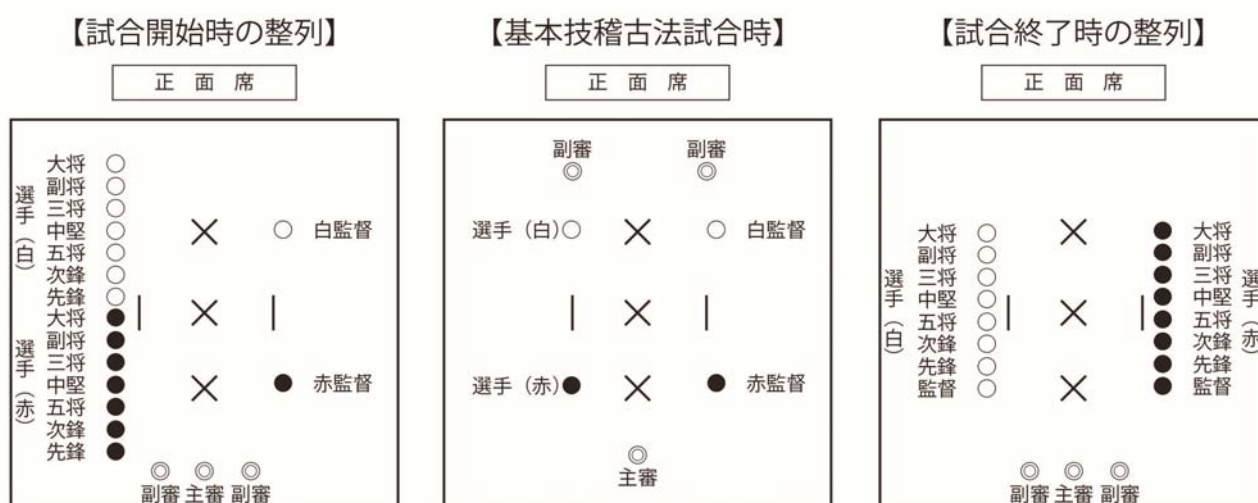
(6) 小学生については、少年用の木刀（中刀）の使用を認める。

(7) 元立ちの木刀は少年用の木刀（中刀）の使用を認める。

(8) 審判の旗の表示は、判定・勝者の決定とも剣道試合審判規則とその細則による。

(9) 主審の発声

- ① 試合者が蹲踞を終え、構えを解いて立会の間合いに入ったところで「始め」と号令を掛ける。二本目以降は「始め」の号令は不要。試合者は決められた基本技及び連続技を続けて行う。
 - ② 試合者が決められた基本技及び連続技を終了し、蹲踞を終え、元の位置に戻り、相互の立礼後「判定」「勝負あり」と宣言する。
 - ③ 不戦勝ち、は、9歩の位置で「勝負あり」と宣言する。
- (10) 判定は別添付の木刀による剣道基本技稽古法による判定基準により行い（礼法含む）、審判の挙げた旗の多い方を勝ちとする。
- (11) 元立ちが声を出して基本技の内容を掛手に知らせない。
- (12) 判定の判断は掛手のみとし、元立ちは加えない。
- (13) 相互の礼及び基本技稽古法試合の体形



2 試合

試合は一本勝負とし、試合時間は 1 分 30 秒、勝敗の決しない場合は引き分けとする。

3 その他

- (1) 試合は剣道基本技による判定試合を先鋒から大将まで行い。その後、一本勝負による試合を先鋒から大将の順に行う。

(2) 勝敗数の計算

団体名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将	勝者数	合計	勝敗
A 剣道教室	鈴木	高橋	山川	渡辺	上田	加藤	田中	4	6	○
基本技稽古法	○	○		○	○					
一本勝負						ⓧ	ⓧ	2	5	×
一本勝負			ⓧ	ⓧ				2		
基本技稽古法			○			○	○	3		
B 剣友会	斉藤	中村	中井	山本	下田	小林	佐藤			

※ 勝者数の合計が同じ場合は、剣道基本技稽古法の判定試合の勝者数が多い方を勝ちとする。

木刀による剣道基本技稽古法の判定基準

1. 共通判定基準

有効打突の条件、要素によって総合的に判断する。

- ・ 姿勢
- ・ 発声
- ・ 打突部位
- ・ 木刀の打突部位
- ・ 刃筋
- ・ 間合い
- ・ 機会
- ・ 体さばき
- ・ 手の内の作用
- ・ 強さと冴え

2. 基本技判定基準

基本技		判定基準
【基本1】	正面	・相手全体が見えるところまで振り上げているか。 ・打突時左足を引きつけているか。
一本打ちの技	小手	・打突時に目付けを外していないか。(小手を見てしまっていないか)
	胴(右胴)	・刃筋正しく打てているか。 ・目付けを外していないか。(胴を見てしまっていないか)
	突き	・腰で突き、突きっぱなしになっていないか。 ・剣先が喉の高さになっているか。
【基本2】 連続技	小手→面	・打突時に左足を引きつけているか。
【基本3】 払い技	払い面(表)	・表鎧を使って、1拍子で打てているか。
【基本4】 引き技	引き胴(右胴)	・正しい鍔ぜり合いから崩し、打突ができているか。
【基本5】 抜き技	面抜き胴(右胴)	・打突時に正対していないか。 ・目付けをはずしていないか。
【基本6】 すり上げ技	小手すり上げ面(裏)	・払いになってしまっていないか。
【基本7】 出ばな技	出ばな小手	・機会をとらえているか。
【基本8】 返し技	面返し胴(右胴)	・手の返しと刃筋が正しくできているか。 ・打突時に正対していないか。
【基本9】 打ち落とし技	胴(右胴)打ち落とし面	・正しい体さばきができているか。 ・物打ちで打ち落としているか。